尊厳をもってその人らしく生きていく社会を目指して

デイケアニュース vol.04

- message：野尻 晋一 第３６回全国デイ・ケア研究大会 in 熊本大会長
- information：認定管理制度をご存じですか？
- join & learn：第３６回全国デイ・ケア研究大会 in 熊本
- deep inside：深層海流 地域包括ケアシステムの強化のための介護保険法等の一部を改正について
- meet our friend：会員施設紹介 デイケア谷津居宅サービスセンター
- event pick up：リハビリテーション・ケア合同研究大会 久留米 2017

一般社団法人 全国デイ・ケア協会

message

第 36 回全国デイ・ケア研究大会 2017 in 熊本を終えて。

本協会主催のリハマネ研修会、協会会長招宴も含めまして平成 29 年 8 月 3 日～ 5 日の 3 日間にわたり「第 36 回全国デイ・ケア研究大会 2017 in 熊本」を開催いたしました。2 年前に熊本開催が決まり準備を始めた矢先に熊本地震が発生し、開催できるのか非常に不安でしたが、全国デイ・ケア協会をはじめ、沢山の方々からご支援をいただき無事開催することができました。お蔭様で研究大会、市民公開講座および共催とさせていただいた「熊本地震 JRAT 活動検証･研修会」を含め約 1,100 名の参加をいただきました。演題数も 101 題の発表がありました。思うような広さの部屋が確保できず、冷房の効きも悪く、立ち見の会場もあり参加者の皆様にはご不便をおかけしたことと思います。この場を借りてお詫び申し上げます。

本大会のメインテーマは「デイ・ケアの不易流行」でした。プログラム最初の大会長オーガナイズドセッションでは、昔ラジオ番組で流行りました“アバンティ”の設定にしました。バーで会話する米満弘之名誉大会長、浜村明徳協会顧問、斉藤正身協会会長がこれまでのかかわって来られた地域リハやデイ・ケアにかかわる熱い足跡をたどりながらリハビリテーションやデイ・ケアの基本軸、すなわち「不易」の部分を据えました。次に厚生労働省の坂野元彦課長補佐から 30 年改定についてご講演いただき「流行」の部分を確認しました。そして長谷川幹協会顧問からは当事者視点では地域包括ケアについて講演いただきました。「サービス提供者側の基本軸」と「求められる変化」、それに「当事者の視点」の三つを意識したプログラムで構成したつもりです。

また今回の熊本地震を受け、大会のサブテーマを「災害支援からみる地域包括ケア」としました。東日本大震災や熊本地震での支援経験から、地域包括ケアの在り方、その中での地域リハやデイ・ケアの役割について講義やシンポジウムを通じて議論が交わされました。市民公開講座では、おもかげ復元師の笹原留似子先生に「語りかけるいのち」と題してご講演いただきました。東日本大震災直後、傷ついたご遺体をご遺族と対話をしながら、できるだけその人らしい面影を復元する活動のお話は、驚きと感動とともに「いのち」に関わる我々にとって示唆の多いお話でした。会場内は感動の涙であふれていました。

大会長　野尻 晋一

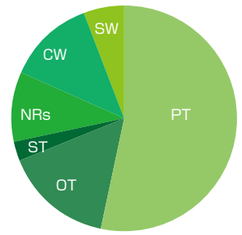
Information

JADC recomendation

認定管理者制度をご存知でしょうか？

全国デイ・ケア協会では、平成 25 年度に認定管理者制度を創設しました。この制度は、通所系サービスの質の向上や利用者の自立支援、地域住民の自助・互助活動への支援等を通じて、地域リハビリテーションの普及・啓発を図ることを目的としており、現在 71 名（理学療法士 38 名、作業療法士 11 名、言語聴覚士 2 名、看護師 7 名、介護福祉士 9 名、ソーシャルワーカー 4 名）の方が認定管理者として活躍されています。

認定管理者職種割合



認定管理者は、当協会から通所系サービスの中心的な役割を担う者として、必要な専門的知識・経験・技術を有すると認められた人です。制度の名称は認定管理者となっていますが、通所系サービスの管理者に限らず、広く地域住民のニーズに応えるための人材育成も目的としています。

認定されるための要件としては、

❶当協会の会員であること（個人会員も含む）
❷認定管理者研修等を履修していること（表参照）
❸当協会または指定団体の研究大会や研修会等に参加し、指定以上のポイント数を取得していること
❹通所系サービスでの勤務経験が 3 年以上あること

となっています。この要件からも明らかなように、通所系サービスの管理的な立場にある方はもちろんのこと、その立場にない方であっても要件を満たせば認定管理者と認定されます。

また、質の担保という観点から、認定には有効期間を設けており、認定された月の翌月から 5 年間が認定の有効期間となっています。認定を更新される場合は、認定期間満了日の 1 年前から更新申請を受け付けています。

更新に必要な要件は、

❶継続して当協会の会員（個人会員も含む）または会員の法人に勤務していること（会員施設から異動等になっても、同一法人で勤務していれば申請可能）
❷認定更新研修等を履修していること
❸当協会または指定団体の研究大会や研修会等に参加し、指定以上のポイント数を取得していること

となっています。現在、認定管理者の認定を受けられている方は、認定の有効期間をご確認いただき、手続きが遅れることのないよう更新していただければと思います。

最後に、地域包括ケアシステムというプラットフォームの構築が推進されるなか、通所系サービスには多くの役割が期待されています。その期待に応えるためには、通所系サービスの質を担保することに加え、単に介護保険の枠組みによるサービス提供のみならず、地域の社会資源として地域住民のニーズにどう応えていくかが重要になってきます。当協会では、今回ご紹介した認定管理者制度以外にも、多くの研修会等を実施しています。今後とも質の高い魅力的な通所系サービスになるよう、ともに研鑽できればと思っていますので、多くの皆様のご参加をお待ちしております。

研修委員長

認定管理者の研修要件

研修会名	研修内容
認定管理者研修会（スキルアップセミナー）	・通所系サービスの歴史と展望
	・地域リハ活動における通所系サービスの役割
	・地域包括ケアシステムにおける通所系サービスへの期待
	・認知症に対するアプローチ
	・時事トピックス
生活行為向上リハビリテーション・通所リハビリテーション計画の作成に関する研修会	・通所系サービスの諸活動とその視点
	・運動機能改善に関する取り組み
重度者への対応に関する研修会	・口腔機能・摂食嚥下リハビリテーション
	・通所系サービスにおける医療の視点
事業所の経営・運営に関する研修会	・リスクマネジメント
	・経営・運営（人材育成）におけるマネジメント

join & learn

第 36 回 全国デイ・ケア研究大会 2017 in 熊本 レポート

不易を知らざれば基立ちがたく、流行を知らざれば風新たにならず。

Photo : Makoto KATOH

平成 29 年 8 月 4 日（金）～ 5 日（土）に歴史を感じさせる熊本県立劇場を会場に『第 36 回全国デイ・ケア研究大会 2017 in 熊本』が開催された。テーマは「デイ・ケアの不易流行」～災害支援からみる地域包括ケア～として、「不易を知らざれば基立ちがたく、流行を知らざれば風新たにならず」を表現した研究大会の内容となっていた。

研究大会の内容として、講演は二日間で合計 11 講演が行われ、不易流行に則した講演や災害支援に関する講演、さらには平成 30 年度医療・介護報酬同時改定を見据えた講演が組み込まれ、講演だけでも充実したものであった。

また発表演題数は口述・ポスターを合わせ全 101 演題（口述 54 演題・ポスター 47 演題、全 18 セッション）と、昨年の千葉大会同様、多くの研究発表がなされ、すべてのセッション会場で満員となっており、熱い議論が繰り広げられていた。

発表内容としては、近年デイ・ケアに求められている「活動と参加」や「生活行為向上リハビリテーション」に関する演題が見られていたが、その中でも臨床現場を色濃く反映した症例報告が多く占めていた。そのため、活発な意見交換が行われやすくあり、多職種がディスカッションしやすい大会になったのではと感じた。

開会式後には、大会長オーガナイズドセッションが行われ、野尻晋一大会長をナビゲーターに斉藤正身会長と浜村明徳顧問を出演者に迎え、Bar さながらの雰囲気で 2 人の現在までの活躍やこれからのデイ・ケアに必要とされる要素について、熊本の暑さに負けない熱い講演を 2 人から頂いた。

シンポジウムは 2 つ開催され、シンポジウム Ⅰ「災害支援とデイ・ケア～もしあなたの街に大規模災害が起こったら、その時デイ・ケアはどう機能するか？～」では、斉藤会長の座長で進行され、土井勝幸理事、本間達也理事、猪野真博氏の三名から災害支援に関して、“デイ・ケアでは何ができるのか”がわかりやすく講演され、さらには積極的な議論が展開された。シンポジウム Ⅱ「通所リハ・訪問リハ・回復期リハそれぞれの訪問機能と役割」では、森山雅志理事の座長で進行し、宮田昌司氏、岡野英樹理事、今田吉彦氏の各領域の 3 名からそれぞれの視点で現状についてと問題提起がなされ、聴衆と熱い議論を繰り広げた。さらに同時改定への対策となる話にまで発展し聴衆としては満足いく内容となった。そして、次回開催地の茨城県であることが発表され、次回大会長の伊佐地隆大会長から紹介も行われた。

最後に前回の千葉大会の参加者合計 847 名に引き続き、今回も約 700 名という例年の研究大会より多い参加者となり、デイ・ケア研究大会の盛り上がりが活発になってきていることを感じている。また熊本で開催された本研究大会では、今後のデイ・ケアの将来について熱く議論することができ、すべての参加者にとって有意義な大会になったことと思う。

Report : Hikaru MATSUNAGA

活動と参加してみた!

実践していくための熱意と根気をたくさんいただいた。

霞ヶ関南病院 デイホスピタル ソーシャルワーカー 秋津 望実

デイ・ケア大会に参加させていただき、デイ・ケアが地域づくりや地域の拠点となる役割を担っていること、災害時に果たす役割、多職種がいる場だからこそできる支援や関わりがあるということを再認識することができました。これからのデイ・ケアに求められることは、「自立支援」「その人らしい生活の構築」「つながりのある生活」「連携に強いデイ・ケア」「自助・互助グループの育成」「市民の見守り、支えあいの力を育む」「社会参加の場づくり」ということや、「今この人にとって何が大事かをきちんと多職種で協議すること、利用中の時期によって利用目的は変化する、だからこそ、その都度話し合っていくことが大切」ということを学び、悩んだ時にはこの言葉に立ち返って自分たちの関わりについて考えられるようにしたいと感じました。

デイ・ケアにいるソーシャルワーカーとして、「その人らしさ」や「その方が地域で暮らしていくこと」を支援していくために、その方自身や地域を知ること、そして事業所の中だけに留まらず、積極的に地域資源を発掘していくことや多職種多機関との連携を図りネットワークの構築につなげていくことも大切だと思いました。今大会を通して、すぐに結果は出なくても継続していくこと、その必要性を発信していくことの重要性を改めて感じるとともに、それを実践していくための熱意と根気をたくさんいただいたように感じます。ここで学んだことや感じたことを仲間と共有し今後の糧にしていきたいと思います。

地域を知ることが活動・参加に不可欠だと痛感。

筑波記念病院　理学療法士　山口　可奈

本大会では、通所リハ・訪問リハ・回復期リハそれぞれの訪問機能と役割についてシンポジウムがあり、訪問することの意義・意味について、あまり深く捉えられていなかったことに気付かされました。自宅内の環境を見るだけでは、本来の活動・参加に繋げることはできない、地域を知ること、本人の歴史を知ることが活動・参加に不可欠だと痛感しました。活動範囲が広がったと言っても、通所リハ側からみて広がったと思っているだけかもしれない、その後続いていないかもしれないという視点を持つことの大切さを学びました。

当法人内にも通所リハからの移行先としての健康増進施設フェニックスがありますが、まだまだ活用が不十分で、どのように繋げるか、日々悶々と考えていました。今大会の発表の中で、実際に地域の体操教室に通い出した方、見学に行ったが参加に至らなかった方などの例を示していただき、実際に動いている事業所の話を聞き、悶々と考えているだけではだめだと背中を押されました。一人ひとりにとってどのような活動と参加に繋げるかという視点を外さないように、色々な可能性を探っていきたいと思います。通所リハ分野でリハビリテーションに携わっている専門職種が奮闘していることを直接知ることができ、大きな力で励まされました。改めて、地域における通所リハの役割を考えることを後回しにせずに、今できることは何か、今回の研究大会で感じたことを当院の職員と共有してチームとして取り組んでいきたいです。

ニュース深層海流

デイケアを取り巻く様々なニュース、その深層にあるもの、流れを見て皆で考えましょう。

平成 30 年の介護医療同時改定を控え、社会保障審議会給付費分科会で各サービスの将来について議論されているが、今回は先んじて平成 29 年 6 月 2 日に公布された「地域包括ケアシステムの強化のための介護保険法等の一部を改正する法律」について少し筆をとりたい。交付後順次施行されていくものであるが、次期改正においても、この法律に基づいた改正の議論が行われていることに注意が必要である。この法律は大きく二つの目的が掲げられており、ひとつは「地域包括ケアシステムの深化・推進」。ふたつ目は「介護保険制度の持続可能性の確保」である。この二つの目的を遂げるために介護保険法および医療法、社会福祉法、障害者総合支援法、児童福祉法に及ぶ広範囲な部分的な改正が示されている。

「地域包括ケアシステムの深化・推進」については、保険者機能の強化・医療介護の連携推進・地域共生社会の実現を挙げ、方向を示した。「医療介護の連携促進」においては、日常的な医学管理、看取り・ターミナル等の機能、生活施設としての機能を兼ね備えた介護医療院の創設が盛り込まれていることが大きな話題であろう。片や、保険者機能の強化の中に、自立支援・重度化防止に向けた取り組みを制度化すると示している。加えて地域包括支援センターの機能強化にも触れられており、保険者による評価義務付けが示唆されている。

「介護保険制度の持続可能性の確保」については、従前より挙げられている話題ではあるが、この中に含まれている「2割負担者のうち特に所得の高い層の負担割合を3割とする」点については、実は国民の興味関心を大いに惹きつける話題である。言ってみれば専門職主導のケア体制から、地域住民の参画、もっと言えば住民自身が支え手になっていくことを目指している訳だが、それには膨大な労力（費用と時間）がかかる。障害のあるなしに関わらず、この仕組みが介護保険制度のように市民権を得られるのかが大きな鍵となる。

我々リハビリ関連の業種として、自立支援・重度化防止に向けた取組の推進の項目に興味関心を寄せがちであるが、実は全ての制度が同心円延長線上に繋ぐことであり、この繋がりが、「地域での暮らし」を支える「道標」になることを忘れてはいけない。地域包括ケアシステムとは、様々な諸法律が結びつき合い、そこで暮らす人たちを支えるプラットホームであり、魔法の手段ではない。これから道を拓くが如く次年度の制度改正が指し示す「地域」の在り方を考えていくべきではないか。

JADC 理事　土井 勝幸

meet our friend

会員施設自己紹介

千葉県習志野市谷津２-23-11　http://www.wanreha.net/zaitaku_reha/

医療法人社団保健会 東京湾岸リハビリテーション病院併設
デイケア 谷津居宅サービスセンター

「よくするデイ・ケア」～してもらうリハビリ→自ら動くリハビリへ～

施設紹介

デイケア谷津居宅サービスセンターは、千葉県の北西部に位置する人口約 17 万人の習志野市にあり、東京ディズニーランドから電車で約 30 分のところにあります。回復期の『東京湾岸リハビリテーション病院（160 床）』の併設施設として、今年で 11 年目を迎えます。

当デイ・ケアは、３～４時間のリハビリ特化型、定員 140 名（午前・午後各 70 名）、月～金平均利用者数約 80 名、登録者数 365 名。利用者様の特徴は、❶介護度が比較的軽い（要介護者 61％、平均介護度 1.9）、❷年齢が若い（平均年齢 73.9 歳）　❸男性が多い（52％）ことです。

施設の特徴は、❶「よくすること」を方針とし、食事・入浴なしのリハビリに特化　❷リハビリ専門職の手厚い配置（TH13 名）❸東京湾岸リハビリテーション病院との連携が強い（３ヶ月に１回の評価、リハビリ科専門医による診察）ことです。現在、リハビリテーションマネジメント加算Ⅱの算定率約 96％。個別のリハビリプログラムを作成し、サーキット形式でリハビリを提供しています。

もみもみリハからの脱却

「よくするデイ・ケア」を方針に、機能改善に加え、生活の中でできることをひとつでも増やすことを目指しています。６年前､受身的な“してもらうリハビリ”→ 能動的に“自ら動くリハビリ”へという目標を掲げ、一部の利用者に提供していた一時的報酬の「マッサージ」を行わないという取り組みを行いました。利用者様へ、マッサージでは麻痺はよくならない、正しい運動方法で、質の高い運動を数多くすることの方が、いま目指している動作ができるようになり、目標としている活動の達成に近づけるということを、ひとりずつしっかり向き合って説明しました。多少辞める方がいるかと思いきや、215 名中、誰一人辞める事なく､「もみもみリハから脱却」することができました。

今後について

同一業者による訪問リハビリとの併用が可能となったため、当施設においても、平成 27 年５月に導入し、電車・バスの練習や買い物といった、より活動と参加に視点を向けた実践的なリハビリにも取り組んでいます。

今後も、活動と参加に視点を向けながら、リハビリ専門職を多く配置し、定期的に評価を行い、デイ・ケアでの効果を発信し続けていきます。

EVENT SCHEDULE 平成 29 年度下半期開催予定

下半期も各種企画をいたしました。皆様の積極的なご参加を心より願っております。
会場等詳細は、協会のホームページにてご確認下さいますようお願い申し上げます。

生活行為向上リハ関連			
研修会名	開催日	会場	定員
リハマネジメント研修会 in 福岡	12/16（土）	博多バスターミナル（福岡）	60 名
リハプログラム研修会 in 福岡	12/17（日）	博多バスターミナル（福岡）	60 名
通所リハビリテーション　重度者対応			
研修会名	開催日	会場	定員
通所リハ重度者対応研修　in 東京	11/18（土）	東京ビッグサイト（東京）	50 名
通所リハ計画立案実践研修会 in 東京	11/19（日）	東京ビッグサイト（東京）	50 名
全職種			
研修会名	開催日	会場	
Pick Up! リハビリテーション・ケア合同研究大会久留米 2017	10/19（木）～21（土）	久留米シティプラザ（福岡）	
経営・運営			
研修会名	開催日	会場	定員
Pick Up! 通所リハ経営運営セミナー in 名古屋	10/28（土）	善常会リハビリテーション病院（愛知）	60 名
認定管理者研修			
研修会名	開催日	会場	定員
デイ・ケア　スキルアップセミナー	H30. 1/27（土）	東京近郊	100 名
平成 30 年度介護報酬改定			
研修会名	開催日	会場	定員
平成 30 年度介護報酬改定対策セミナー	H30. 2/20（火）	CIVI 秋葉原（東京）	150 名

Pick Up!

10/19-21 リハビリテーション・ケア合同研究大会 久留米 2017
全国デイ・ケア協会主催シンポジウム

今年度のリハケア大会は久留米にて開催される。テーマは“美しく　リハの縦糸　ケアの横糸”。当協会にとっては第 37 回全国デイ・ケア研究大会にカウントされるイベントである。大会初日には当協会主催のシンポジウム「通所リハと通所介護が地域で協働するために～通所系サービスの新時代を提案する～」を開催する。地域における通所リハと通所介護の新たな在り方・関わり方について示されるシンポジウムになることであろう。

○座長　岡野英樹（全国デイ・ケア協会理事）○情報提供　染谷和久（全国デイ・ケア協会事務局）○シンポジスト真栄城一郎（通所リハビリテーションセンター清雅苑主任）、塩手公（株式会社ツクイ埼玉・群馬圏本部長）、能本 守康（一般社団法人日本介護支援専門員協会常任理事）

大会事務局
社会医療法人雪の聖母会聖マリアヘルスケアセンター
〒 830-0047 福岡県久留米市津福本町 448 - 5
TEL：0942(35)5522　FAX：0942(31)3216
E-mail：rehacare@st-mary-med.or.jp

準備室
株式会社西日本企画サービス
〒 839-0809 福岡県久留米市東合川 3-10 -36
TEL：0942(44)5800　FAX：0942(44)6655
E-mail：rc2017@nksnet.co.jp

10/28 通所リハ経営運営セミナー in 名古屋

通所リハ経営運営セミナー in 名古屋が 10 月 28 日（土）に善常会リハビリテーション病院にて開催される。平成 27 年度の介護報酬改定で新設されたリハマネ加算Ⅱや生活行為向上リハ実施加算、社会参加支援加算は、取得のための業務の煩雑さ故に、効果的・効率的に運用することに苦慮している事業所も多いのではないであろうか。本研修会では、通所リハの運営実態を明確にし、平成 30 年度の介護報酬改定を見据えた通所リハの効率的な経営運営について伝える内容となっている。

一般社団法人 全国デイ・ケア協会

介護、デイ・ケアサービスの追求

当会の前身である、全国老人デイ・ケア連絡協議会は 1994（平成 6）年、全国のデイ・ケアを提供する施設の有志が集まり、情報の共有化・職員の研修・研鑽の機会提供を目的とし開設、20 年にわたり活動を続けて参りました。

近年、通所系サービスの役割は急速に高まり、介護予防・認知症疾患・重介護者等、様々な対象者層へのリハ・ケアの提供が求められるようになってきました。

制度的には多くの課題を抱える中、運営の適正化と質の向上、関係機関との連携、住民への啓発等をより公的な立場で取り組んで参ります。地域包括ケアシステムの構築が推進される中、病気や障害のある人たちが尊厳をもってその人らしく生きていくことの出来る社会を目指し、通所系サービスの組織としてその活動に取り組んでいく次第です。

一般社団法人　全国デイ・ケア協会　事務局
住所：〒 350 － 1173 埼玉県川越市安比奈新田 283 － 1 霞ヶ関南病院内
電話：049（237）0700　FAX：049（237）0701
e-mail：info@day-care.jp

協会認定制度のご案内

当協会では、研修体制の整備とともに認定のあり方について検討を重ね、平成 25 年度より協会認定制度を開始いたしました。通所系サービス (通所介護・通所リハビリ等) の質の向上、利用者の自立支援、地域住民の自助・互助活動への支援を行い、地域リハビリテーションの普及・啓発を促すことを目的に、管理者及び事業所を対象とした協会認定制度を創設いたしました。

認定管理者とは、「通所系サービスの中心的な役割を担う者として、必要な専門知識・経験・技術を有することを認められた者」としました。

認定事業所とは、「事業所として満たすべき基準をはじめ、取り組みや特色・方針が認められた施設」としました。

認定管理者については、本号の「Information」にて特集しております。

http://www.day-care.jp

編集後記

今回はイベントレポートの執筆を主に担当させて頂きました。イベントレポートを作りながら思う事は、この数年の全国デイ・ケア研究大会は参加者数、発表演題数が増えており、大会が年々盛り上がってきていることを感じています。これはすべての協会員、またデイ・ケア協会の斉藤会長はじめ理事の皆様、さらには様々な委員の方、協会事務局の方などの力と熱意によるものと改めて実感しております。その中で今回、広報委員としてデイ・ケア協会の発展に微力ながら貢献できたことを嬉しく思いながらイベントレポートの文章を練っていたところでした。（JADC 広報委員 松永 玄）

猛暑の中開催された熊本大会は、演題数･参加者数共に多く、盛会となった大会でした。大会事務局の皆様におかれましては、前年に熊本地震が発災した中での準備となり、ご苦労も多かったのではないかと思います。前年度に千葉大会の事務局を経験した身として、とても感動いたしました。

さて、本号は熊本大会終了後に作成を始めましたが、タイトなスケジュールの中、無事に発刊することができました。今回は構成を担当いたしましたが、作成にご協力いただいた皆様には本当に感謝申し上げます。次回以降も広報委員として情報発信に貢献できるように頑張りたいと思います。（JADC 広報委員 津川 恭平）

R.I.P Dr. Kawakami

デイケアニュース 04号　2017年10月発行　編集／発行　一般社団法人 全国デイ・ケア協会 広報委員会